

コーポレートガバナンス論		講義	教授 矢島 格
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 専門選択科目 教職科目	科目ナンバリング	23020204 25320228

1. 授業のねらい・概要

企業を取り巻く様々な利害関係者の利害を調整し効率的な企業活動を実現させるために、企業経営者を監視し規律づけていく仕組みが必要となる。この仕組みをコーポレートガバナンスと呼び、これに関する一般的な基礎理論を説明する。さらに、日本におけるコーポレートガバナンスの特性と課題を具体的な事例を紹介しながら説明する。なお、本科目の履修にあたっては、「ファイナンス入門」を履修しておくことが望ましい。

2. 授業の進め方

テキストを使用した講義形式を基本とする。第1回～第2回では、コーポレートガバナンス論の基礎的な議論を説明し、第3回～第5回では、株主利益の最大化を目指すアメリカ型のコーポレートガバナンスを説明する。第6回～第8回では、アメリカなどにはないユニークな日本のコーポレートガバナンス構造を説明し、第9回～第11回では、日本のコーポレートガバナンスにおける中心的役割を果たしてきたと言われる銀行のガバナンス問題について説明する。そして、第12回～第15回では、コーポレートガバナンスの新潮流であるステイクホルダー型ガバナンスや内部統制とコーポレートガバナンスなどについての最近の動向を説明する。なお、随時、新聞・雑誌の記事から具体的な出来事を取り上げて実践的な説明も行う。

3. 授業計画

1. コーポレートガバナンスとは何か（1） （所有と経営の分離）	8. 日本型ガバナンスの再検討（3） （メインバンク・システムの有効性）
2. コーポレートガバナンスとは何か（2） （エージェンシー問題）	9. 日本の銀行のガバナンス（1） （預金者からの規律）
3. アメリカ型ガバナンスの特徴と限界（1） （株主による経営者のモニタリング）	10. 日本の銀行のガバナンス（2） （銀行のガバナンスと規制の役割）
4. アメリカ型ガバナンスの特徴と限界（2） （経営者へのインセンティブ付与）	11. 日本の銀行のガバナンス（3） （ガバナンスの空白）
5. アメリカ型ガバナンスの特徴と限界（3） （株式市場を利用するアプローチ）	12. アメリカ型ガバナンスと日本企業
6. 日本型ガバナンスの再検討（1） （企業系列）	13. ステイクホルダー型ガバナンス
7. 日本型ガバナンスの再検討（2） （日本独自のメインバンク・システム）	14. 最近の動向（1） （コーポレートガバナンスコード）
	15. 最近の動向（2） （スチュワードシップコード）

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく。なお、これらの準備学修には、2時間以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出時に採点・評価のポイントを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

企業のコーポレートガバナンスの基本的なあり方について修得し、コーポレートガバナンスの重要性が理解できる。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢（50％）およびレポートの結果（50％）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、授業開始時まで指定するので毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

受講の要件としては、金融・ファイナンスの基礎知識があることが望ましいが、そうでない場合も、理解できるように説明する。疑問や不明な点については、遠慮なく質問してもらいたい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。